

令和3年3月24日（水）

感謝の集い

下村昌弘

- 6年生の皆さん、保護者の皆様、こんにちは。感謝の集いに先立って一言ご挨拶を申し上げます。
- 今日は、「長い学校生活の一つの節目としてこれまで自分を育ててくれたヒトやコトに感謝をしよう」という趣旨でこの会が開かれると聞いています。
- いままで、お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃん、そして兄弟、姉妹など、御家庭の方にはいろいろなことをしてもらったり、心配をかけたりしてきたことでしょう。まずはそういったことを思い出してみてください。
- ちょっとした事故にあってけがをした人もいるのではないですか。親子喧嘩をしたり、「こんなご飯はいやだ」などとおうちの方が用意してくれた食事に文句を言ったりした人もいるのではないのでしょうか。
- そんなみなさんを学校に通わせるために、おうちの方は一生懸命働いて、そのお金を君たちのためにたくさん使ってくれたのです。そういうことを考えたことがありますか。学校の先生たちに「お世話になりました」と言う前に、まず、おうちの人に感謝してくださいね。
- そして、心の底から「おうちの人に迷惑をかけた」、「苦勞を掛けた」と思える人は、今日、家に帰ってからおうちの方の手を握ってみてください。
- その手が12年間君たちを育ててくれた手です。想像できますか。その手を最近握ったことがありましたか。コロナでなかなかできないのはもちろんですが、そうでなくても、大きくなってから親と手をつなぐなんて、ちょっと恥ずかしくてできない、やっていないのではないのでしょうか。
- 手を握ってみてください。そしてその温かさを感じてください。君たちが生まれたころはもっと柔らかい手をしておられたと思います。しかし今は、ずいぶんごつごつざらざらした手をしておられることでしょう。それは君たちを育てるために大変な苦勞をしてこられたからです。それを知る意味でも今日は帰ってから必ず手を握ってください。恥ずかしがったり、照れたりしないで。
- そして「これからもっと苦勞をかけるけど、よろしく願います」という思

いを込めて、握った手を一層ぎゅっ〜と強く握りしめてください。恥ずかしがらずに。

- こういう節目、節目で感謝の気持ちを持つことはとても大事なことです。人間うまくいくと、つい「自分が努力をしたからだ」と思ってしまうものですが、その割合は、実は案外小さいものです。周りの人の支えや助けがあって初めて、物事はうまくいくものです。
- 感謝は人の心を大きく、美しく、そして「強く」します。勉強でもスポーツでも、できる人うまい人はたくさんいます。でも、本当の意味で「強い人」にならなければなりません。
- 「強い人」はいつも周りの人に感謝しています。だからますます「強く」なります。
- これから中学年の完成期である「7年生」に向けて頑張る皆さん。「才能」×「努力」×「感謝力」で自分の可能性を切り開いていってください。